

日本比較経営学会ニュース

No.12/2010.12.20

発行：日本比較経営学会事務局

〒157-8570 東京都世田谷区砧5-2-1

日本大学 商学部 所 伸之研究室内

TEL/FAX: 03-3749-6832

e-mail: tokoro.nobuyuki<アットマーク>nihon-u.ac.jp

日本比較経営学会公式サイト <http://www.soc.nii.ac.jp/jacsm/index.html>

<12号の主な内容>

- ・日本比較経営学会第36回全国大会の統一論題「グローバル化の新段階と比較経営学の諸課題ーコーポレート・ガバナンス改革の国際比較」について
- ・日本比較経営学会第36回全国大会統一論題の趣旨について
- ・日本比較経営学会第36回全国大会の開催について
- ・儀我壮一郎先生を偲ぶ会を振り返って
- ・事務局からのお知らせ

全員参加型の全国大会の定着

日本比較経営学会理事長 小阪 隆秀

日本比較経営学会は、「グローバル化の新段階と比較経営学の諸課題」を統一論題にして、2009年から2011年までの3年間をかけて、研究報告と討論を重ねていくことを決めています。すでに2009年には「BRICsの台頭をめぐって」というサブテーマ（会場：沖縄国際大学）で、また2010年には「世界同時不況と企業経営の新たな胎動」というサブテーマ（会場：日本大学）で、統一論題を掘り下げた研究報告と討論を行いました。来る2011年には、サブテーマ「①欧米の資本市場とコーポレート・ガバナンス改革」および「②新興経済諸国のコーポレート・ガバナンス改革」を掲げて、同志社大学で全国大会を行う準備を、いま鋭意進めている段階です。

3年間かけて統一論題として「グローバル化の新段階と比較経営学の諸課題」をかかげることになった主な理由は、2007年7月に米国の投資銀行ベアー・スターンズがサブ・プライムローンで巨額の赤字を出したのに始まり、2008年のリーマン・ショックを契機とする世界的な金融・経済危機に陥った、その本質の経営学的な解明にあります。

それまで飛躍的に拡大してきていたグローバル経済は、今回の危機を契機に、世界各国をほぼ同時に恐慌のなかに巻き込んでいきました。これは、規制を撤廃し、市場の持つ「自己調整機能」にひたすら依存しようとしてきた新自由主義による成長モデルの限界の露呈である、と見ることもできます。

また、より本質的には、成熟化段階に達した資本主義が内部に抱えた実物経済と貨幣経済の乖離、あるいは市場による社会の破壊という大きな矛盾が、グローバル化の過程で露呈ないし質的な変化を生み出してきている、と見ることもできます。

それゆえ、資本主義とそこでの企業経営の分析にはいろいろな視点とアプローチが必要になっています。日本比較経営学会としては、このような危機からの脱出と新たな発展の糸口を模索し、多様な発展モデルの可能性を比較研究のアプローチによって検討していくことが重要な課題になる、と私自身はそのように認識しています。そして、このような認識は、3年間にわたる今回の統一論題の設定における問題意識とも通奏低音として共通していると考えています。

このような統一論題の立て方にも見られますように、日本比較経営学会は規模ではそれほど大きいとはいえませんが、新しい課題に積極的に挑戦しています。そして、その姿勢は、年1回開催される全国大会に何よりもよく表われてきていると思います。

たとえば、2010年の全国大会では、記念講演として、一橋大学名誉教授・日本大学教授の寺西重郎氏をお招きして「市場主義の現段階：新自由主義のインパクト」についてご講演をいただき、大会統一論題では、5名の報告者と3名の討論者、2名の司会者が参加し、ホットな討論を展開しました。自由論題は、1会場につき3名の報告者と2名の討論者と1名の司会者による構成で、6会場で実施しました。また、ワークショップを4会場で開催し、それぞれコーディネーター1名、パネラー3名、ディスカッサント2名の編成で報告と討論を行いました。どの会場においても、フロアとの間で熱心な議論が展開されました。

このように、日本比較経営学会の全国大会では、記念講演・特別講演（海外からのゲストを含む）、統一論題、自由論題、ワークショップを通じて、参加会員の皆さん一人ひとりが大会の重要な構成メンバーとなり、議論を戦わせることで、相互研鑽を図っていくことがしっかりと軌道に乗るようになりました。文字通り、全員参加型の全国大会である、というところに日本比較経営学会の大きな特徴があると思います。そして、これも偏に会員の皆様の日頃のご努力とご貢献の賜であると心からの敬意と感謝を申し上げる次第です。

このような会員の皆様のご努力とご貢献への学会からの顕彰の一環として、いま理事会で、「日本比較経営学会賞」の新設を検討しています。若い研究者の優れた研究成果や意欲的な研究を顕彰することで、更なる飛躍を支援していきたいと考えています。また、この学会賞の別の部門として、長年にわたって研究を重ねてこられたベテランの研究者による優れた研究成果に対しても顕彰していくことが重要であると考えています。これらのことによって、日本比較経営学会の活動をさらに活性化し、ひいては社会への貢献をさらに進めていくことができるのではないかと期待している次第です。どうか、会員の皆様のご理解とご協力をいただきますよう、心からお願い申し上げます。

日本比較経営学会第36回全国大会統一論題の趣旨

2010年9月17日 日本比較経営学会プログラム委員会

「グローバリゼーションの新段階と比較経営学の諸課題

ーコーポレート・ガバナンス改革の国際比較」

日本比較経営学会は、「グローバリゼーションの新段階と比較経営学の諸課題」の統一論題のもとに2年間、議論を深めてきた。第1年目の第34回大会では、サブテーマ「BRICsの台頭を巡って」の議論を深め、翌年の第35回全国大会ではサブテーマ「世界同時不況にいかにか立ち向かうか」の議論を深めてきた。

今日、グローバリゼーションは、新たな段階を迎えている。2008年9月のリーマン・ショック以降、

世界的な金融危機とそれにともなう世界同時不況は、依然として深刻である。さらに、2010年5月、ギリシャ財政危機の表面化により世界経済は不安定さを増している。こうした世界経済の不安定な状況は、地球規模での環境問題、労働問題、人権問題、雇用問題、所得格差問題などを深刻なものにしている。高い失業率と不安定雇用の増大は、先進国の共通の現象となっている。

これらのグローバルに引き起こされた諸問題を解決するために、各国政府と企業経営及び社会運動の各方面から、様々な政策や施策が広がりを見せている。しかしこれらの政策提案や社会運動が、世界的な金融危機と同時不況を回復し、どこまでグローバルな問題解決に迫ることができるか、世界は注目している。この問題に対応するため、とりわけ、企業経営の在り方、コーポレート・ガバナンスの在り方が、GMの再生、トヨタのリコール問題に見られるように、決定的な鍵を握っている。

そこで、第36回全国大会では、「コーポレート・ガバナンス改革の国際比較」というサブテーマの議論を深めることとした。会員諸氏の活発な議論を期待したい。

第36回全国大会プログラム委員会

夏目啓二（龍谷大学）、上田 慧（同志社大学）、酒井正三郎（中央大学）
田中 宏（立命館大学）、日高克平（中央大学）、溝端佐登史（京都大学）

日本比較経営学会第36回全国大会の開催について

大会準備委員長

同志社大学商学部教授 上田 慧

日本比較経営学会の第36回全国大会は、2011年5月13から15日までの3日間、同志社大学今出川校地の新町キャンパス・臨光館で開催されることになりました。同志社大学で当学会を開催させていただくのは、1988年3月の第13回大会以来、2回目となります。

大会期間中、今出川はキャンパス整備のために工事中ですし、京都は葵祭の最中ですが、槌音や祭りの喧騒を避けて、会場を少し離れた新町キャンパス・臨光館の2階フロアを借り切って準備を進めております。ご不便をおかけすることのないよう努めますので、どうぞ多くの会員の方々がご来京いただけますよう、お待ちしております。

日本比較経営学会は、近年、「グローバリゼーションの新段階と比較経営学の諸課題」という論題を深めてまいりましたが、本大会では、強力な大会プログラム委員ならびに理事各位のご尽力により、統一論題「グローバリゼーションの新段階と比較経営学の諸課題ーコーポレート・ガバナンス改革の国際比較ー」というテーマで開催されることになりました。企業統治の改革だけでなくその国際比較から何を学ぶか、当学会ならではの雄大な論題設定ですので、興味津津、活発な討論と盛り上がりをお楽しみに期待しております。開催校としても、何とか、記念講演等の形でお役に立ちたいものと、いま、鋭意苦心しているところです。

本大会の統一論題に示されるように、グローバリゼーションはいま世界史的な激動期を迎えております。同志社大学は、旧薩摩藩邸跡地にあり、あの幕末の大激動期に、薩長同盟成立の舞台になった所です。昨今の歴史ブームの中で、日本比較経営学会の気概あふれた会員の皆さま方をお迎えすることができ、勝手ながらまことに時宜を得たものと思っております。京都御所も近くにありまして、学会の合間に京都のそうした面を少しでも味わって頂ければ幸いです。とはいえ、今出川校舎はJR京都駅から地下鉄で10分程度ですが、臨光館の大会会場は、今出川駅から7-8分歩かなければなりません。また当日は、

葵祭と重なりますので、宿泊施設はお早めにご予約下さいますようお願いいたします。

僭越ですが、今大会の実行委員長を引き受けさせていただきましたが、当大学所属の会員は今のところ、私と、事務局長を務めて頂く経済学部横井和彦先生の2人しかおりません。大学院生など若い方に期待し、支えられながら、大会成功のためにできるだけ準備をすすめるつもりでおりますので、多くの会員各位のご参加を心よりお待ちしております。

儀我壮一郎先生を偲ぶ会を振り返って

日本大学商学部 桜井 徹

昨年12月9日に儀我壮一郎先生がご逝去されて1年が過ぎた。この間、10月10日に「偲ぶ会」を学士会館で開催した。儀我先生は、海道進先生らと社会主義経営学会(現:日本比較経営学会)設立に尽力され、理事長も務められたことから、本学会関係者にも多数ご出席いただいた。厚くお礼申し上げます。儀我先生の人となりについて、偲ぶ会を終えて、改めて、その「大きさ」「広さ」「深さ」を実感している。

まず、「大きさ」は、業績にみることができる。1952年、大阪市大に助手として赴任される前後から逝去される直前までの業績数は、著書(単著8点、共著5点)、編著18点、著作論文99点、雑誌論文289点、これに辞典・辞書執筆、書評、魯迅論や小論・随想など150点近くに達する。大学人を卒業された76歳から89歳までの業績も、全体で、138本以上、ご逝去された年の2009年も11点以上である。

つぎに「広さ」は、研究分野の範囲の広さ(中国の社会主義企業研究から公企業、ライフワークの医療・医薬品多国籍企業に至る)だけでなく、魯迅論の文学やエッセーと多彩である。その広さは、交際範囲の広さにもつながっている。日本比較経営学会や日本経営学会および関西経営学研究会、企業経済研究会、医療関係の労働組合・団体・研究所に加えて、日野原重明氏が創立された新老人の会、また御尊父と関係する張作霖爆死事件に関する活動、さらには出身校・ゼミ(四高、東大大河内ゼミ)の同窓会や俳句の会などでも積極的に参加されていた。もちろん、そうした多彩な活動・交際も、先生の中では統一してとらえられていたであろうことは想像に難くない。

最後に「深さ」に関しては、いわゆる懐の深さを指摘しておきたい。先生は、ゼミ所属の学生・院生だけではなく、ゼミに出席した聴講生や研究会でしりあった若手研究者にも分け隔てなく温かく接し、その薫陶を受けたものは数多い。それは、「敵のいない研究者」(池上惇氏)と評されるように、意見の異なる研究者からも高く評価されている。

儀我先生の「大きさ」「広さ」「深さ」は、偲ぶ会と同時に刊行した追悼文集『生とは心の旅にして—儀我壮一郎先生の思い出—』をご一読いただければ十分納得されると確信する。

事務局からのお知らせ

日本比較経営学会第36回全国大会は2011年5月13日(金)～15日(土)の3日間(13日は理事会のみ)同志社大学今出川校地、新町キャンパス臨光館にて開催されます。会員の皆様にはふるってご参加下さいますようお願い申し上げます。